

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	スポーツ少年団本部補助金						
担 当 課 係 名	生涯学習課		課	社会体育	係	作成者	草薨 正勝
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち					総合計画の ページ
	基本計画	スポーツ活動の推進とスポーツ施設の整備					
	主要施策	スポーツ活動の振興、充実					97・98
予 算 費 目	一般	会計	10 款	教育費	6 項	保健体育費	1 目 保健体育総務費
事 業 期 間	平成	年度	～	平成	年度	新規 / 継続の区分	継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理						
根 拠 法 令 等	仙北市スポーツ少年団大会派遣費補助金交付要綱・仙北市スポーツ少年団本部規約						
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務						
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助						

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市内の住民
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	スポーツの振興・活動支援
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	スポーツ少年団募集・登録・大会派遣費支給・育成費支給・指導者養成等

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	スポーツ少年団 （入団可能者数）	目標	人	2,255	2,247	2,184	
			実績	人	2,255	2,247	2,184	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	スポーツ少年団 （登録者数）	目標	人	2,255	2,247	2,184	
			実績	人	922	875	830	
			達成度	%	40.9%	38.9%	38.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				2,000	2,000	2,000	
	人 件 費 (B)		—		2,356	2,421	2,378	
	職 員 数		—		0.30	0.30	0.30	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				4,356	4,421	4,378	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				4,356	4,421	4,378
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		1,932	1,968	2,005
市民1人当たりのコスト(円)		—		137	141	141		

【事務事業の今までの成果】

小学校のクラブ活動がなくなり、その受け皿としてスポーツ少年団が多く誕生し現在に至っている。
仙北市内には現在34団のスポーツ少年団が活動している。
小学校及び父兄のスポーツ少年団に対する理解も浸透してきた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県内全ての小学校施設を活動の場に行っているスポーツ少年団がある。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	活動の場の確保・指導者の確保・大会派遣費等の補助

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	スポーツの振興・活動支援をするためには、現在の制度では必要である。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	補助金の形で支出していますが、団本部に係る事務も生涯学習課において処理しており、支援のあり方や団本部の他の構成員との適正な役割分担についての検討を踏まえ、必要な改善を図りつつ推進すべきものと考えます。

一次評価診断図

